Keyword 彫刻　パブリックアート　インスタレーション　空間

彫刻と環境空間との共存

社会性との繋がりから見る現代のあり方の発見

芸術研究科 造形表現専攻
芸術表現領域 博士前期課程
2024年3月修了

寺本幸弥

主査 黒岩俊哉　**副査** Robert David Platt　前田哲明

研究背景

私は以前より薄いからのような形状をした彫刻作品を具象、抽象問わず制作してきた。制作においては一貫して作品に内側と外側を作り出すことを意識し、作品をその境界線として位置付けてきた。境界線により分断された空間が作品と合わさることでどのように変化して彫刻のもつ印象を鑑賞者に与えるのかを研究し、モチーフもポージングからコンセプトの読み取りやすい人体を多く採用した。

今後の発展の一つとして今までの内側と外側の関係から生まれる空洞を実体化させ、それらを構成することでの表現も取り入れ制作を行っている。

研究目的

本研究は自身の立体作品と環境空間との共存を考え、そこから社会との繋がりを見出して現代における彫刻の在り方を見出すものである。現在の彫刻は古典的な木彫や塑造だけではなく、フィギュアやインスタレーション（空間彫刻）といった美術館やギャラリーでの展示だけではない様々な存在方法がある。野外展示が可能な点も彫刻の特徴であり、私の研究では展示空間との共存を目指すことで作品が空間に対してどのような効果をもたらすのかを検証し、作品を通して社会へアプローチすることで彫刻の在り方から社会との繋がりや発展を目標としている。

研究概要

成果・まとめ

私は彫刻と空間に対する関係について研究してきたが作品を制作する意識の中で彫刻のための空間という先入観が残り、彫刻をベースとした空間の作成を行っていたように感じる。今後は更に元々存在する空間を尊重したインスタレーションとしての発展やミニマリズムのように彫刻としての存在を抑え、空間を見るための彫刻として存在する作品展開から現代社会と空間彫刻の繋がりを意識した研究を行っていきたい。

指導教員コメント

自身の彫刻制作・研究を通して，立体造形作品と環境との関係性を問う研究である．作品では，その内実（物質・物体）よりも虚実（物体・物質が作り出す空間）の存在を意識している．それは作品（本体）と環境空間との関係性，さらに作品（作家）と社会との関係性に拡張され，現代彫刻の存在と意義についての本質的な問いとなっている．

黒岩俊哉